

川西町福祉に関するアンケート調査 調査結果概要（健常者）

I 調査概要

1. 調査目的

「川西町第4次障害者計画」及び「第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画」の策定にあたり、障害者の方が暮らしやすいまちづくりを進めるための計画策定の基礎資料とするため。

2. 調査設計

調査対象	調査期間	調査方法
18歳以上の住民1,000人を 住民基本台帳登録者の中から 無作為抽出	令和5年8月11日～ 令和5年8月31日	郵送配布 郵送・WEB回収 ※8月23日に督促状発送

3. 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000件	紙：372件 WEB：70件	44.2%

（※本資料は令和5年8月末時点までの回収票を反映）

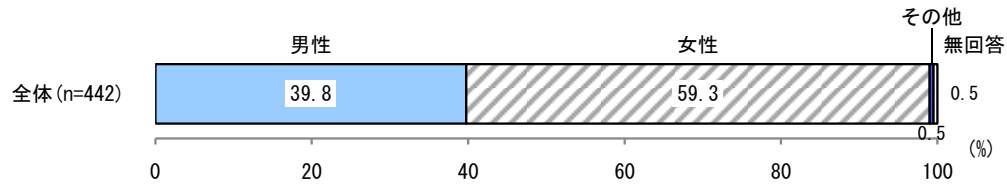
4. 報告書を見る際の注意事項

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数として百分率（%）で示しています。
- ・百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- ・1つの質問の2つ以上答えられる複数回答の質問の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- ・グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合があります。

Ⅱ 調査結果

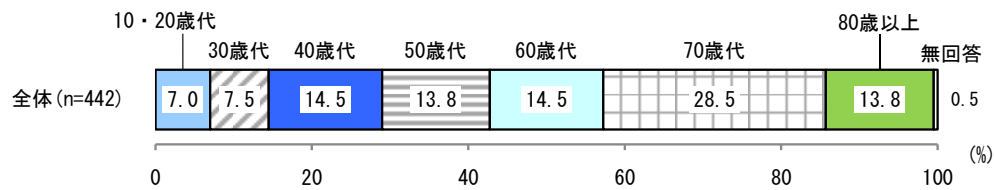
1. 回答者自身のことについて

問1 性別



・「男性」が39.8%、「女性」が59.3%、「その他」が0.5%となっている。

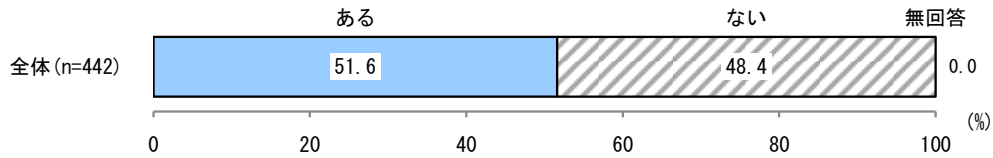
問2 年齢 (令和5年8月1日現在)



・「70歳代」が28.5%で最も高く、次いで「40歳代」と「60歳代」が14.5%、「50歳代」と「80歳以上」が13.8%と続いている。

2. 障害のある方とのかかわりについて

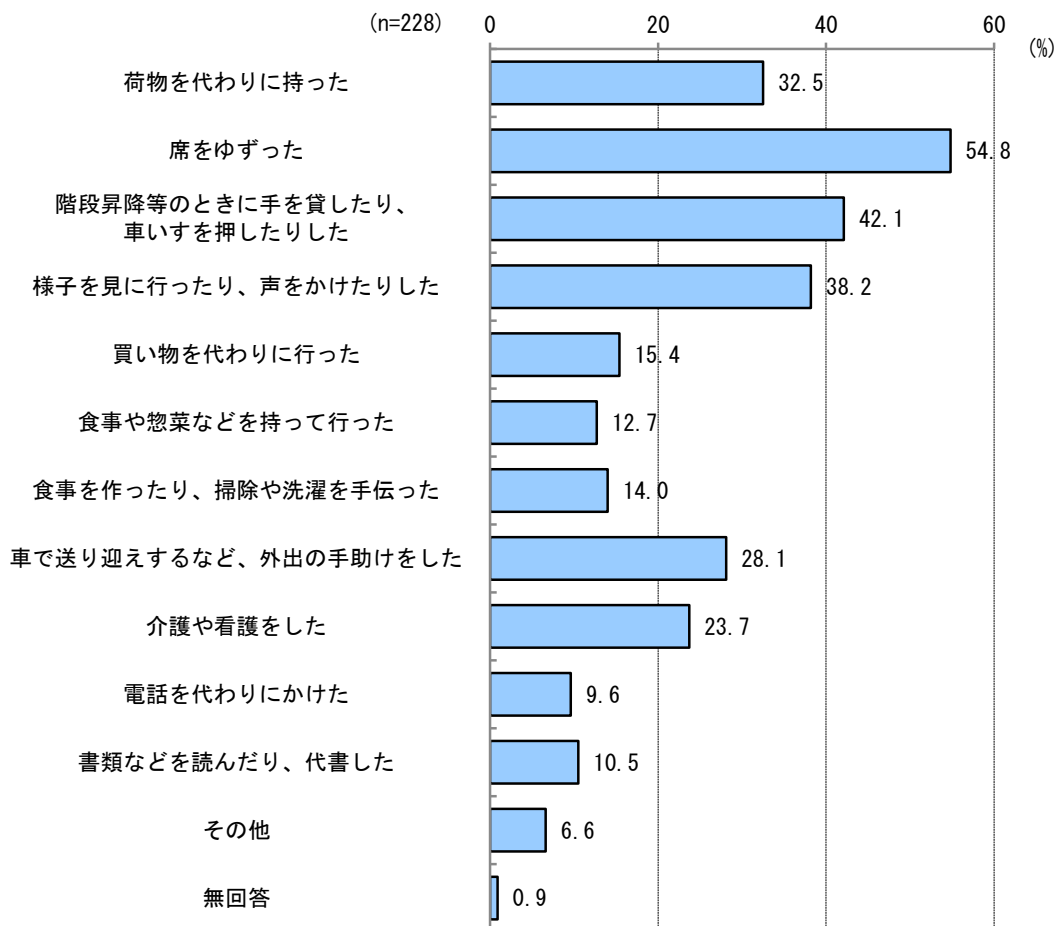
問3 障害のある方を手助けした経験の有無



・「ある」が51.6%、「ない」が48.4%となっている。

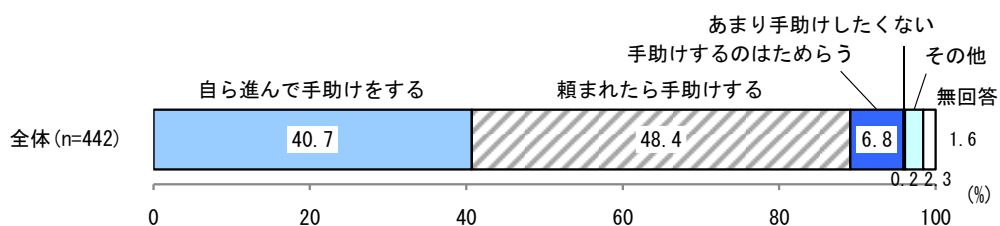
問3-1 障害のある方を手助けした内容

(問3で「ある」と回答した方のみ)



・「席をゆずった」が54.8%で最も高く、次いで「階段昇降等のときに手を貸したり、車いすを押したりした」が42.1%、「様子を見に行ったり、声をかけたりした」が38.2%と続いている。

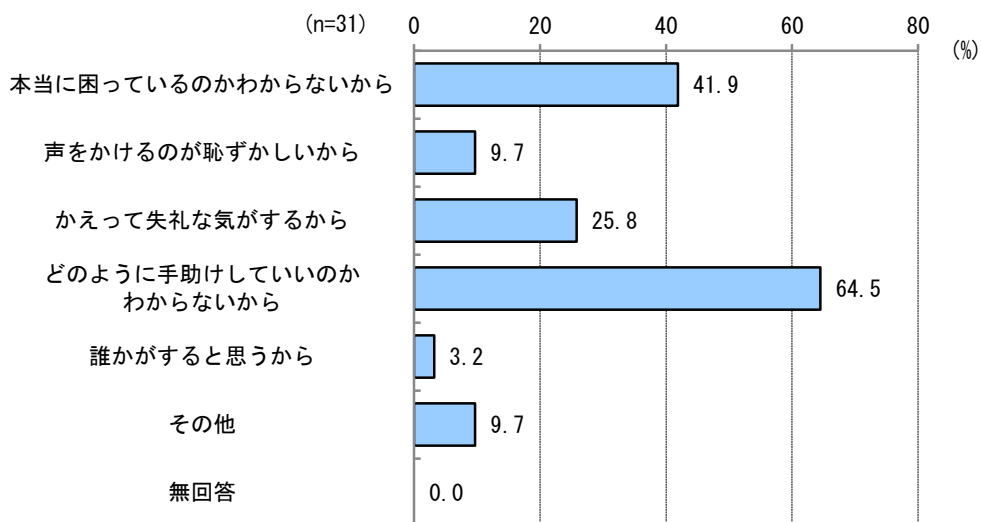
問4 障害のある方が困っているとき手助けするか



・「頼まれたら手助けする」が 48.4%で最も高く、次いで「自ら進んで手助けをする」が 40.7%、「手助けするのはためらう」が 6.8%と続いている。

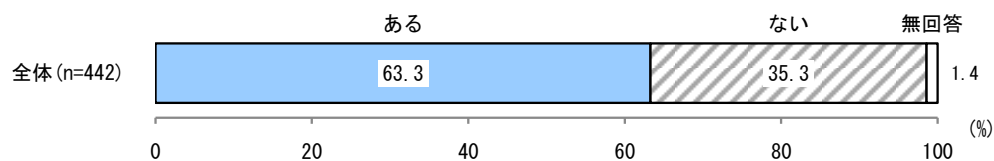
問4-1 手助けしない理由

(問4で「手助けするのはためらう」、「あまり手助けしたくない」と回答した方のみ)



・「どのように手助けしていいのかわからないから」が 64.5%で最も高く、次いで「本当に困っているのかわからないから」が 41.9%、「かえって失礼な気がするから」が 25.8%と続いている。

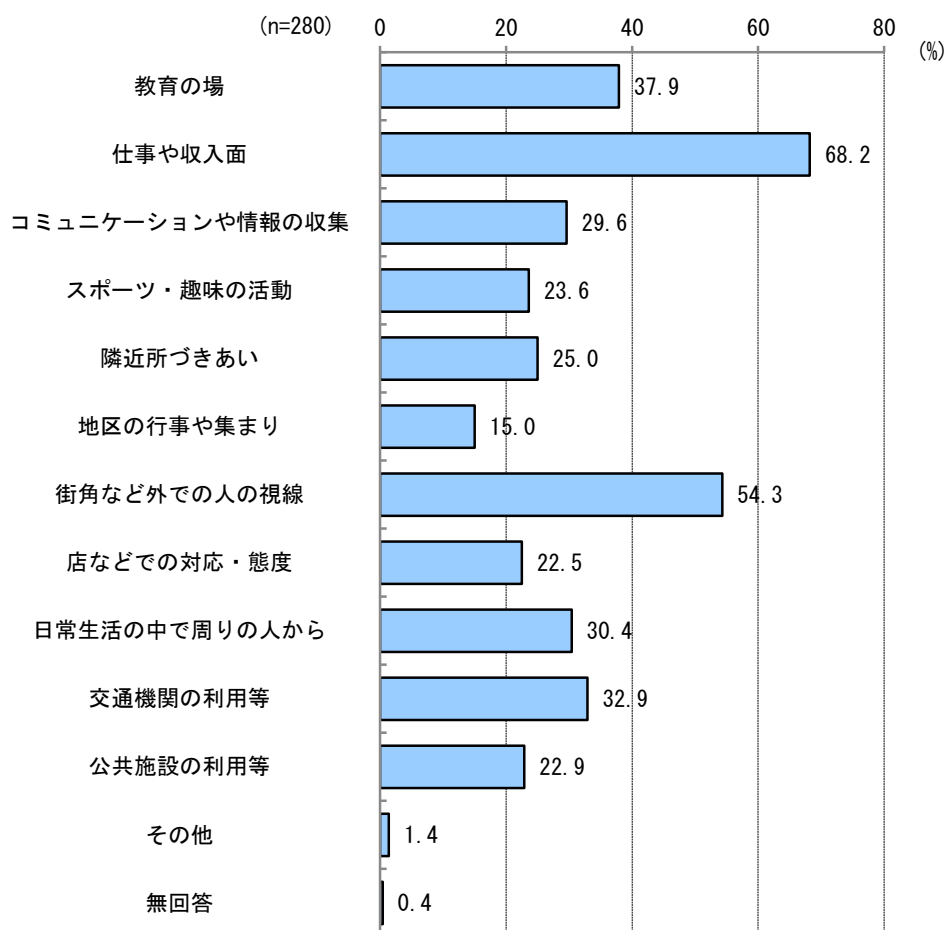
問5 地域社会での障害への差別や偏見



・「ある」が63.3%、「ない」が35.3%となっている。

問5-1 差別や偏見を感じる場面

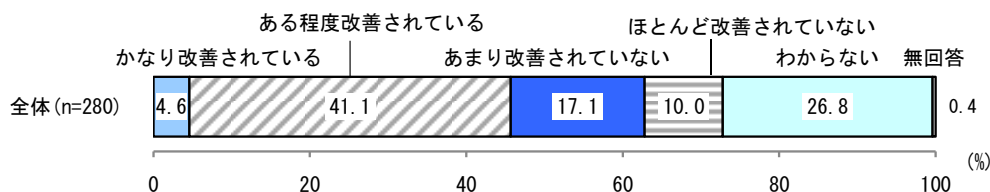
(問5で「ある」と回答した方のみ)



・「仕事や収入面」が68.2%で最も高く、次いで「街角など外での人の視線」が54.3%、「教育の場」が37.9%と続いている。

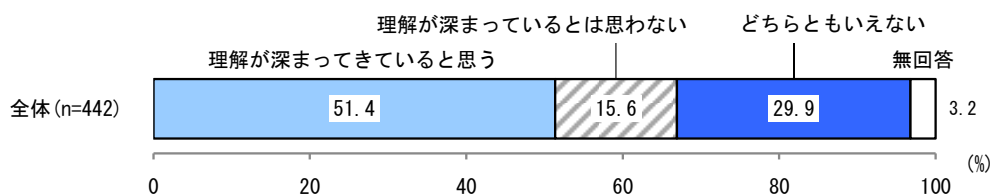
問5-2 5年前と比べた障害に対する差別や偏見の改善状況

(問5で「ある」と回答した方のみ)



- ・「ある程度改善されている」が41.1%で最も高く、次いで「わからない」が26.8%、「あまり改善されていない」が17.1%と続いている。
- ・『改善されている』（「かなり改善されている」+「ある程度改善されている」）は45.7%となっている。

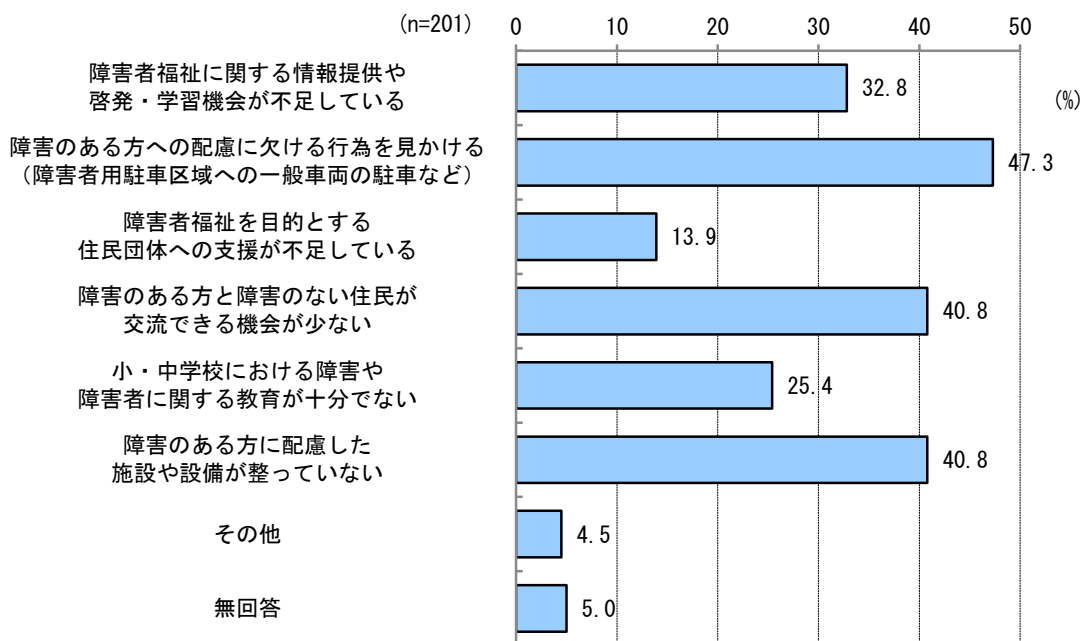
問6 障害がある方の社会参加への理解



- ・「理解が深まってきていると思う」が51.4%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が29.9%、「理解が深まっているとは思わない」が15.6%と続いている。

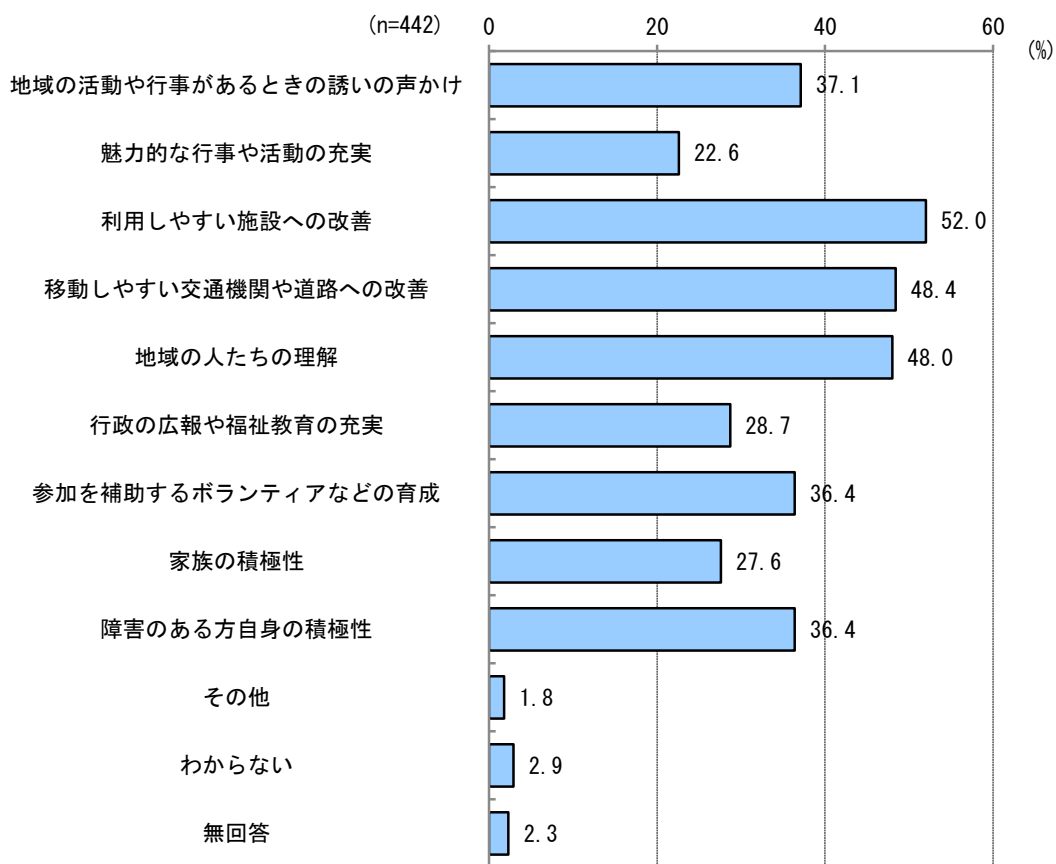
問6-1 理解が深まっていないと思う理由

(問6で「理解が深まっているとは思わない」、「どちらともいえない」と回答した方のみ)



- ・「障害のある方への配慮に欠ける行為を見かける（障害者用駐車区域への一般車両の駐車など）」が47.3%で最も高く、次いで「障害のある方と障害のない住民が交流できる機会が少ない」、「障害のある方に配慮した施設や設備が整っていない」が40.8%、「障害者福祉に関する情報提供や啓発・学習機会が不足している」が32.8%と続いている。

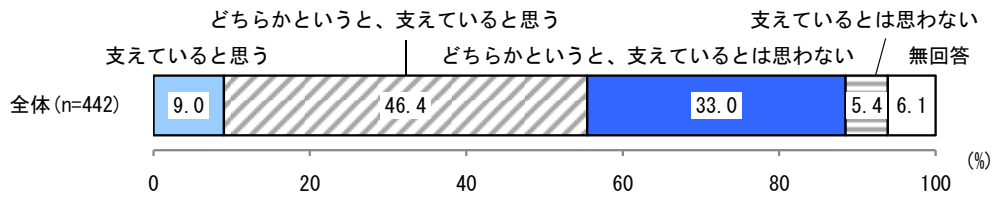
問7 障害のある方が社会に積極的に参加していくために大切なこと



・「利用しやすい施設への改善」が52.0%で最も高く、次いで「移動しやすい交通機関や道路への改善」が48.4%、「地域の人たちの理解」が48.0%と続いている。

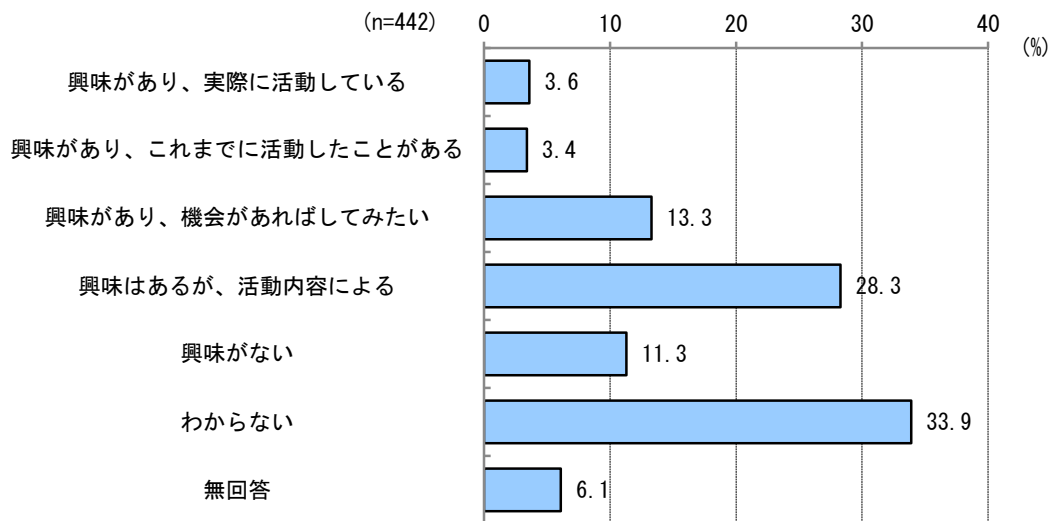
3. 障害のある方への支援について

問8 障害のある方を地域の方が支えていると思うか



- ・「どちらかという、支えていると思う」が 46.4%で最も高く、次いで「どちらかという、支えているとは思わない」が 33.0%、「支えていると思う」が 9.0%と続いている。
- ・『支えていると思う』(「支えていると思う」+「どちらかという、支えていると思う」)は 55.4%となっている。

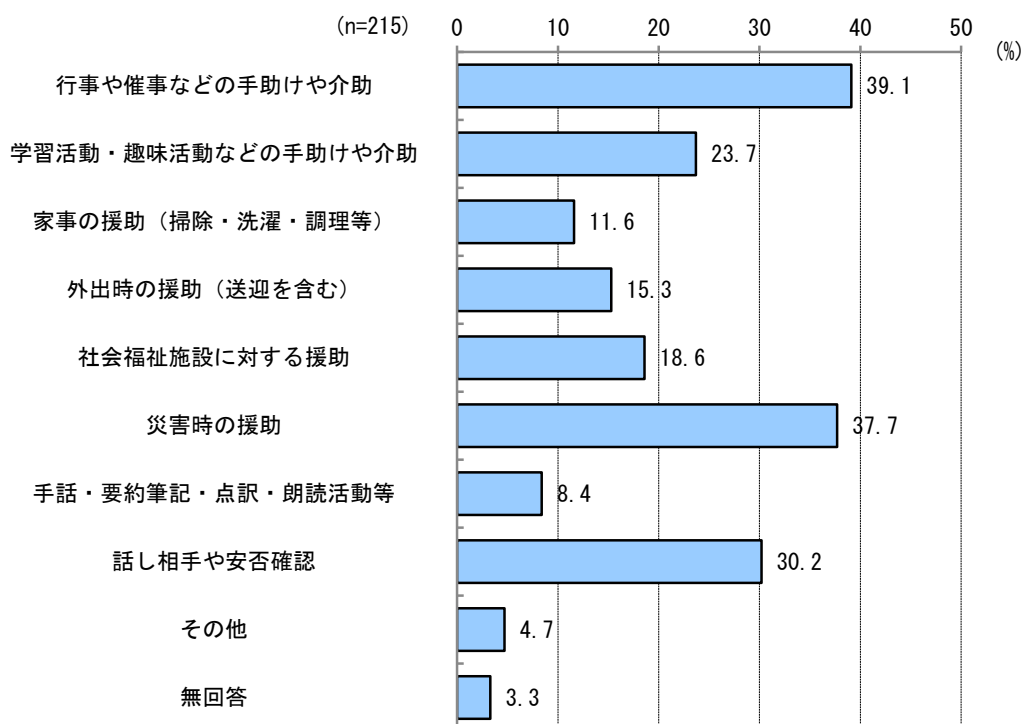
問9 障害のある方にかかわる支援活動への興味関心



- ・「わからない」が 33.9%で最も高く、次いで「興味はあるが、活動内容による」が 28.3%、「興味があり、機会があればしてみたい」が 13.3%と続いている。

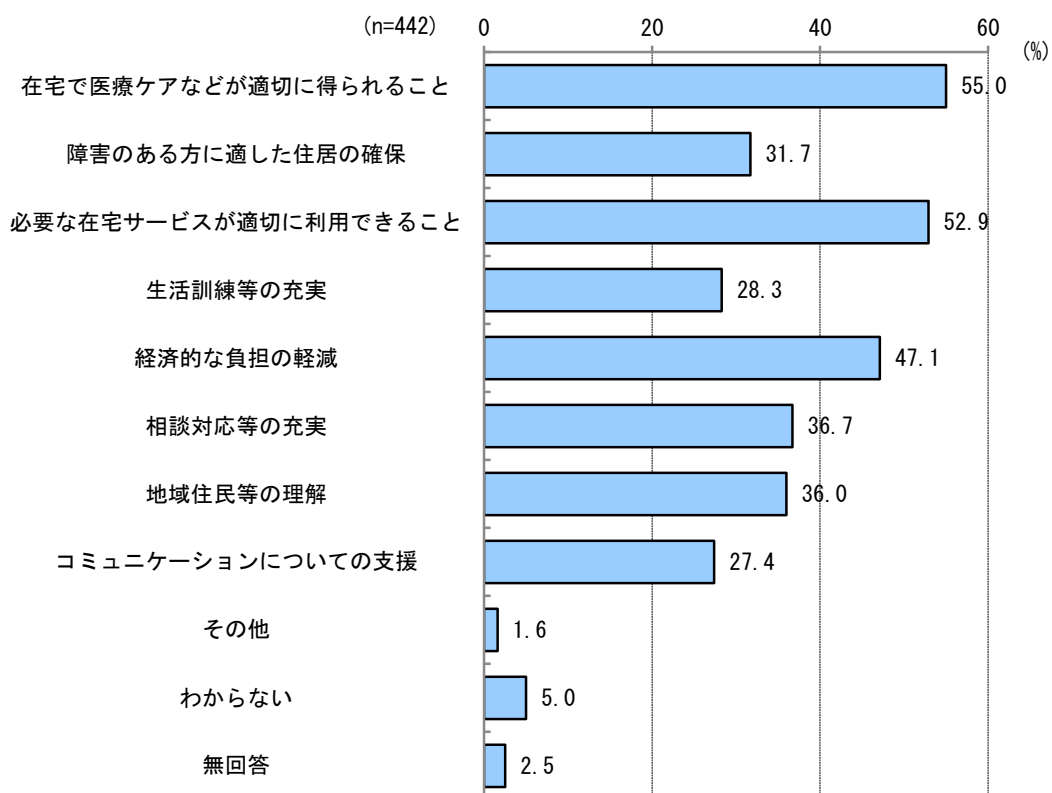
問9-1 参加している（したい）支援活動

（問9で「興味があり、実際に活動している」、「興味があり、これまでに活動したことがある」、「興味があり、機会があればしてみたい」、「興味はあるが、活動内容による」と回答した方のみ）



・「行事や催事などの手助けや介助」が 39.1%で最も高く、次いで「災害時の援助」が 37.7%、「話し相手や安否確認」が 30.2%と続いている。

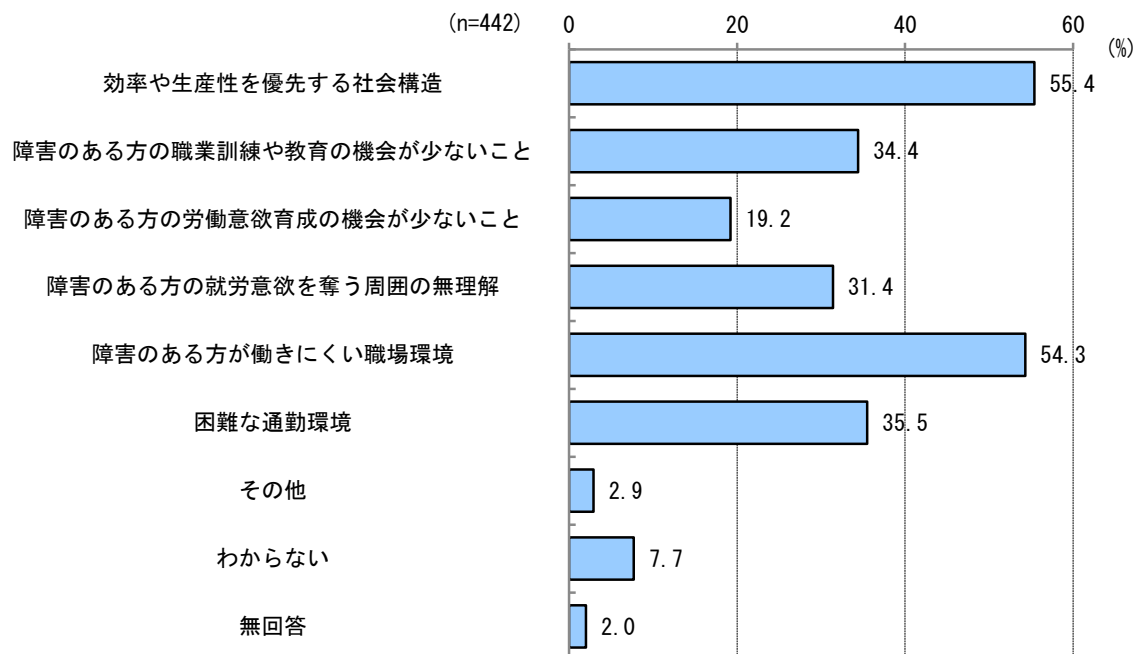
問 10 障害のある方が地域で生活するためにあればよいと思う支援



・「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」が 55.0%で最も高く、次いで「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が 52.9%、「経済的な負担の軽減」が 47.1%と続いている。

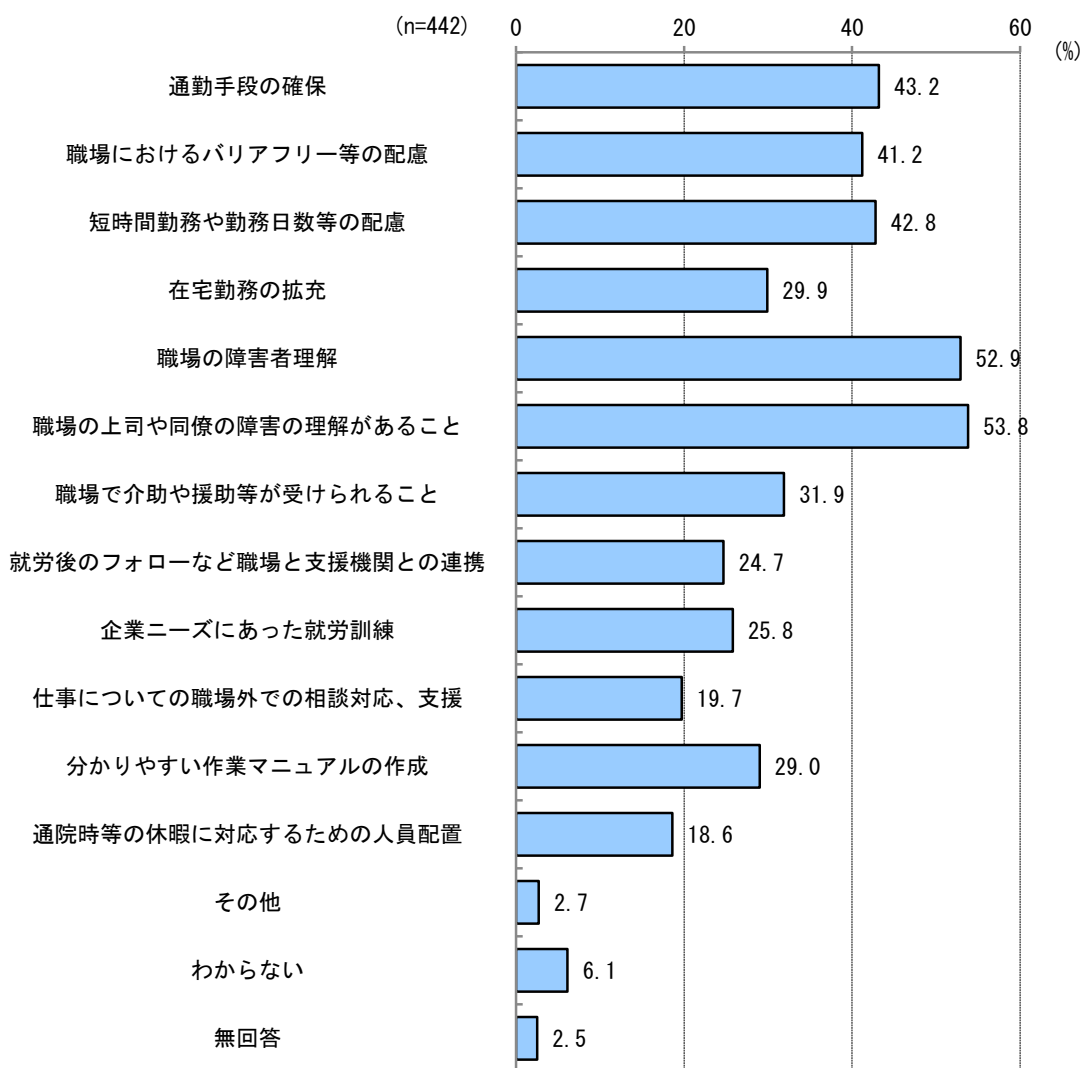
4. 障害のある方の就労について

問 11 障害のある方が仕事につきにくい原因



- ・「効率や生産性を優先する社会構造」が 55.4%で最も高く、次いで「障害のある方が働きにくい職場環境」が 54.3%、「困難な通勤環境」が 35.5%と続いている。

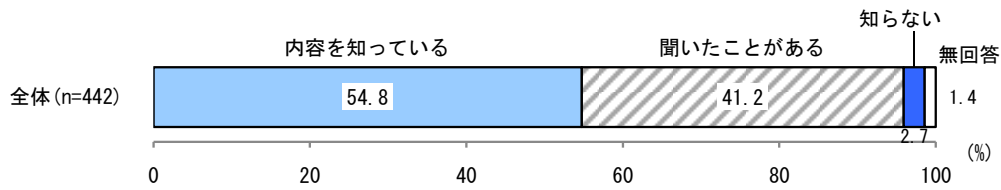
問 12 障害のある方に必要だと思う就労支援



・「職場の上司や同僚の障害の理解があること」が53.8%で最も高く、次いで「職場の障害者理解」が52.9%、「通勤手段の確保」が43.2%と続いている。

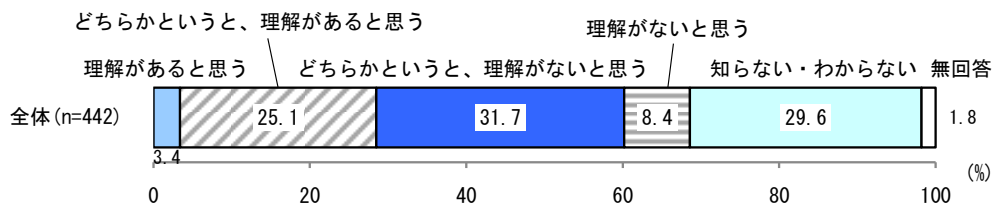
5. 障害のある児童の教育について

問 13 「発達障害」の認知度



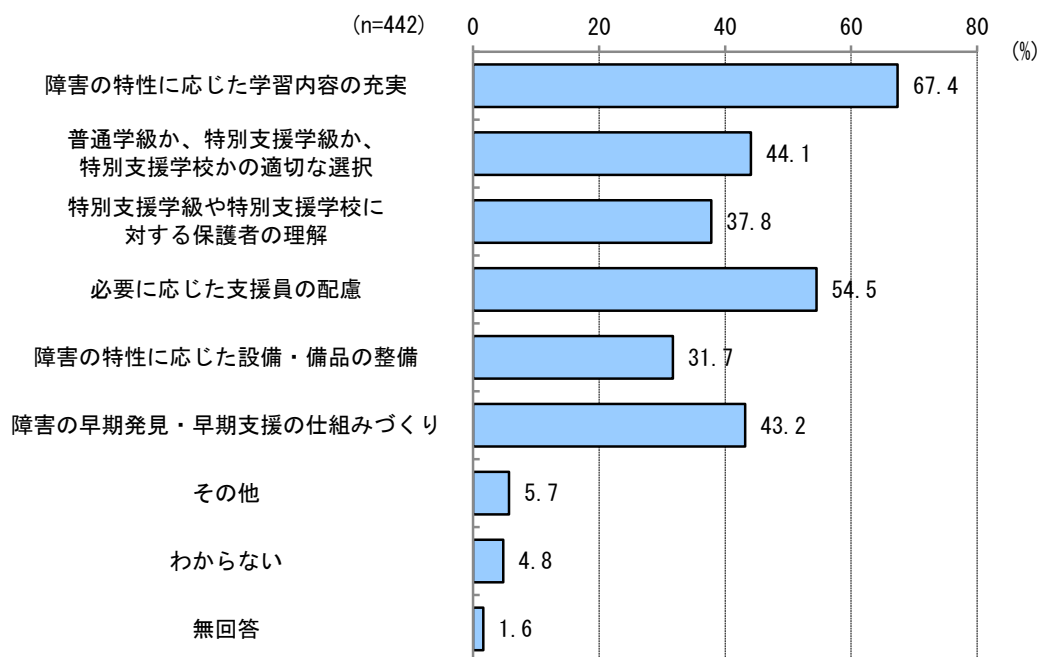
- ・「内容を知っている」が 54.8%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が 41.2%、「知らない」が 2.7%と続いている。

問 14 発達障害への町民の理解度



- ・「どちらかというと、理解がないと思う」が 31.7%で最も高く、次いで「知らない・わからない」が 29.6%、「どちらかというと、理解があると思う」が 25.1%と続いている。
- ・『理解がないと思う』（「どちらかというと、理解がないと思う」+「理解がないと思う」）は 40.1%と4割を占めている。

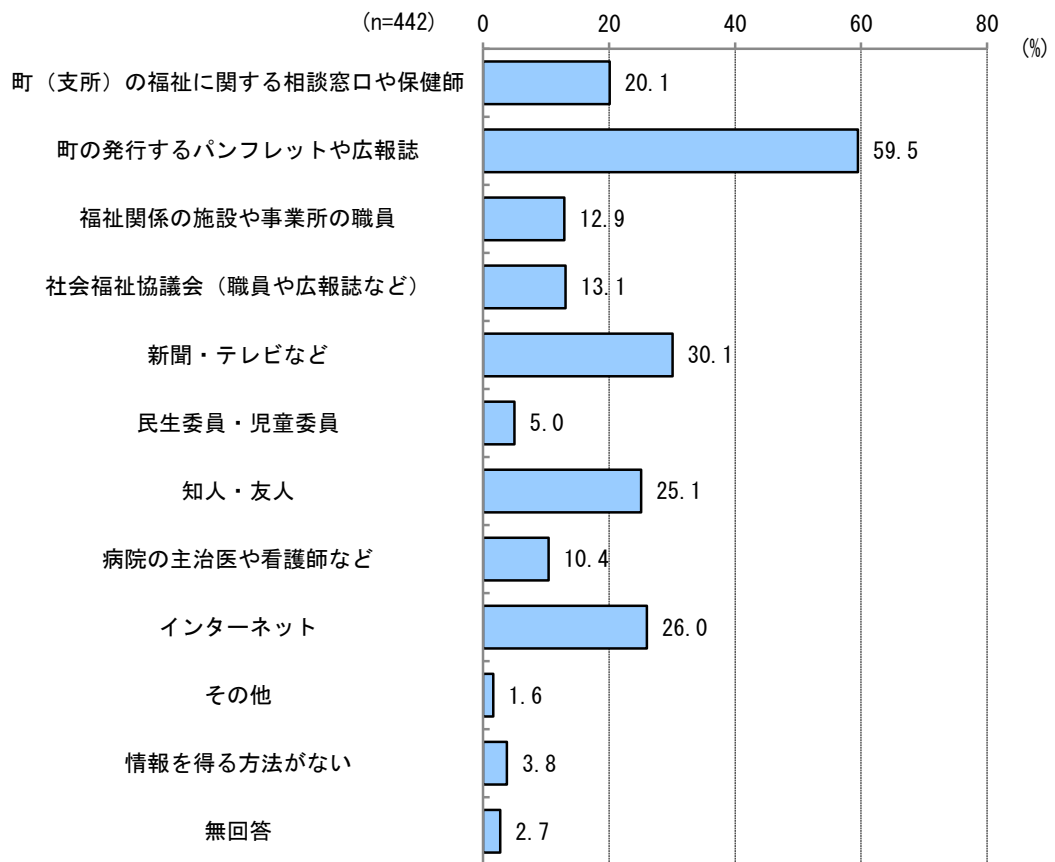
問 15 障害のある児童・生徒がいきいきと成長するために必要な取組



- ・「障害の特性に応じた学習内容の充実」が 67.4%で最も高く、次いで「必要に応じた支援員の配慮」が 54.5%、「普通学級か、特別支援学級か、特別支援学校かの適切な選択」が 44.1%と続いている。

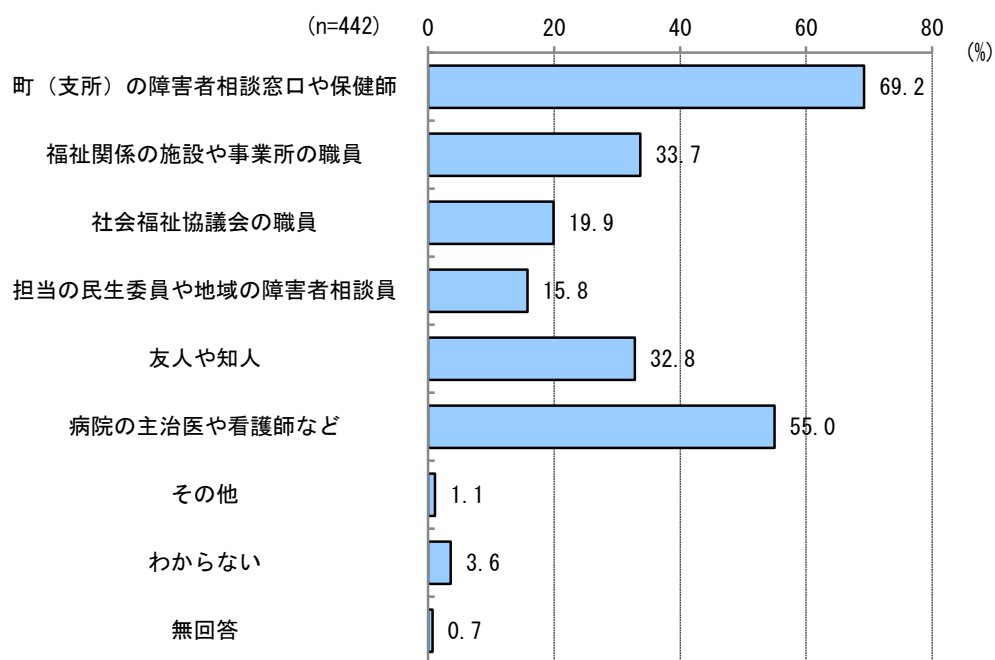
6. 福祉サービス等の情報について

問 16 福祉サービスに関する情報の入手先



- ・「町の発行するパンフレットや広報誌」が 59.5%で最も高く、次いで「新聞・テレビなど」が 30.1%、「インターネット」が 26.0%と続いている。

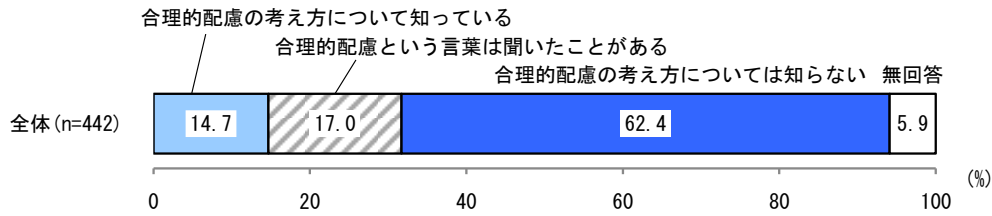
問 17 障害者になったとき、または障害が疑われたときの家族以外の相談先



- ・「町（支所）の障害者相談窓口や保健師」が 69.2%で最も高く、次いで「病院の主治医や看護師など」が 55.0%、「福祉関係の施設や事業所の職員」が 33.7%と続いている。

7. 障害者の権利擁護について

問 18 「合理的配慮」という考え方の認知度



- ・「合理的配慮の考え方については知らない」が 62.4%で最も高く、次いで「合理的配慮という言葉は聞いたことがある」が 17.0%、「合理的配慮の考え方について知っている」が 14.7%と続いている。

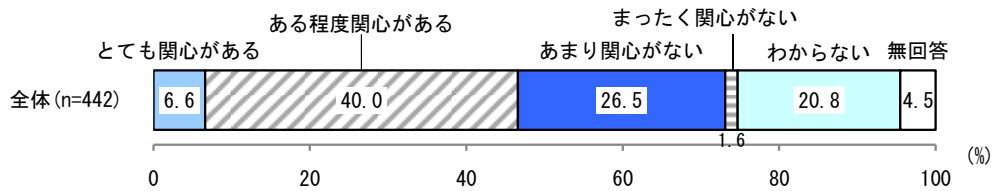
問 19 役所やお店、病院、学校などで必要だと思う障害者への配慮

- ・ 障害者の人が利用できる設備の充実
- ・ 対応ができる人材の育成（支援者、手話対応者）
- ・ 障害に対する理解を深めていくための授業・機会の設置（時間・曜日に配慮）
- ・ 障害の特性に関する知識の普及
- ・ 町と福祉施設の連携
- ・ 家族以外の人に手伝ってもらえる制度
- ・ 優しく接する、受け入れる、声をかける
- ・ バリアフリー（段差、溝、狭い道）、ユニバーサルデザインの世界づくり
- ・ 車いすでも移動しやすい環境の整備
- ・ 障害者の移行を最優先で対応する選択肢、受付窓口の設置
- ・ 役場やけやきホールなどの車いすトイレの改修（古く使いづらい）
- ・ 障害者の方の意見を聞く事
- ・ 困っている時のサポート
- ・ ルール化・マニュアル化しすぎない、個々に応じた柔軟な対応の実施
- ・ 筆談、読み上げ、カード、ひらがな表などの分かりやすいコミュニケーション
- ・ 障害のある子ども、ない子どもが共に育つ教育の場
- ・ 相談しやすい環境づくり、時間をかけて話を聞ける体制
- ・ 役場からの訪問

等

8. 障害者福祉施策について

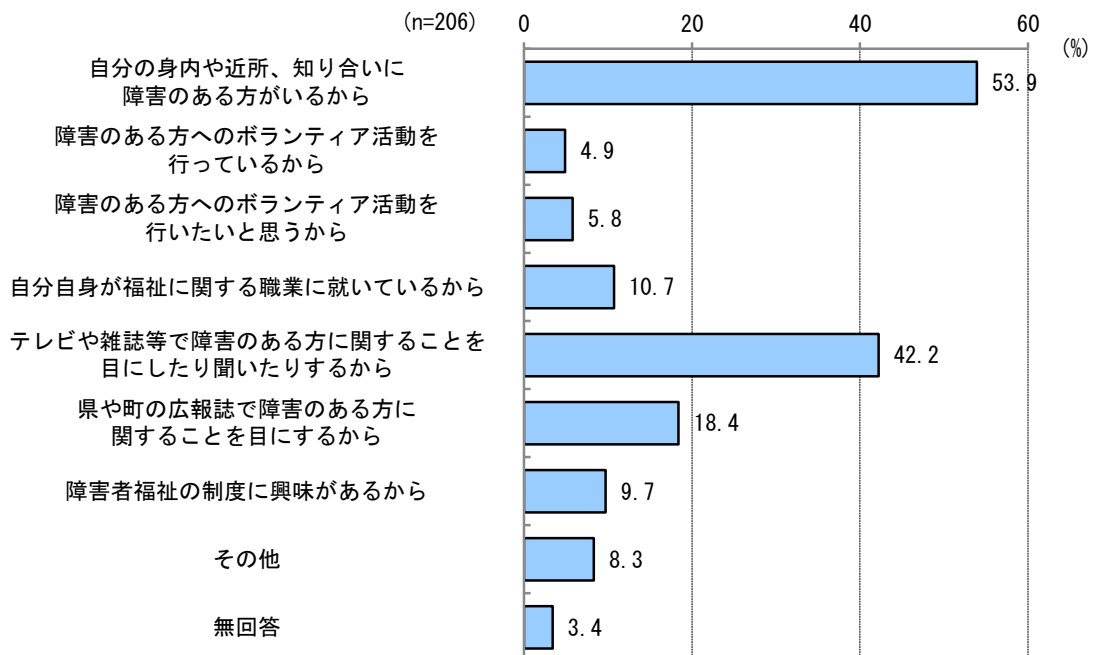
問 20 障害福祉への関心の有無



- ・「ある程度関心がある」が 40.0%で最も高く、次いで「あまり関心がない」が 26.5%、「わからない」が 20.8%と続いている。
- ・『関心がある』（「とても関心がある」 + 「ある程度関心がある」）は 46.6%となっている。

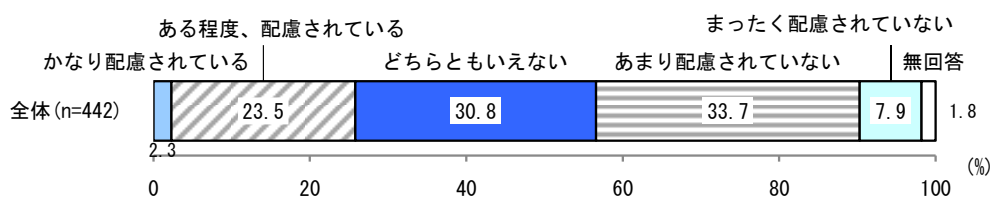
問 20-1 障害福祉に関心がある理由

(問 20 で「とても関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した方のみ)



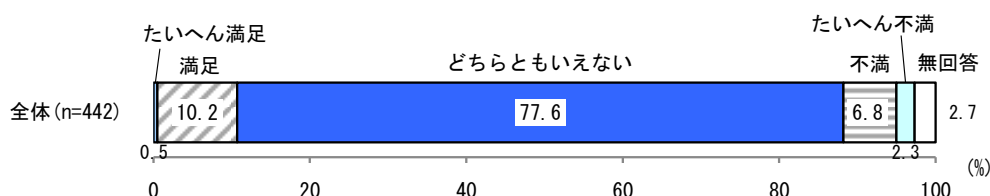
- ・「自分の身内や近所、知り合いに障害のある方がいるから」が 53.9%と最も高く、次いで「テレビや雑誌等で障害のある方に関することを目にしたり聞いたりするから」が 42.2%、「県や町の広報誌で障害のある方に関することを目にするから」が 18.4%と続いている。

問 21 町内の道路や施設が障害者にも配慮されていると思うか



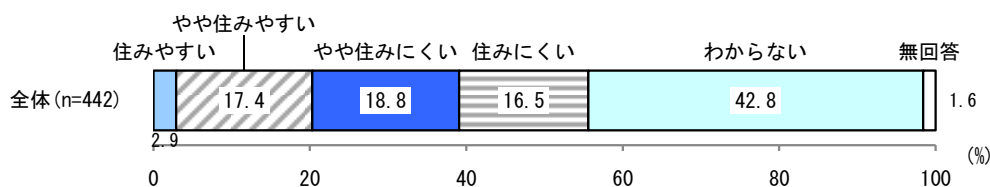
- ・「あまり配慮されていない」が 33.7%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が 30.8%、「ある程度、配慮されている」が 23.5%と続いている。
- ・『配慮されていない』（「あまり配慮されていない」+「まったく配慮されていない」）は 41.6%と4割を超えている。

問 22 川西町の福祉施策の満足度



- ・「どちらともいえない」が 77.6%で最も高く、次いで「満足」が 10.2%、「不満」が 6.8と続いている。
- ・『満足』（「たいへん満足」+「満足」）は 10.7%、『不満』（「不満」+「たいへん不満」）は 9.1%となっている。

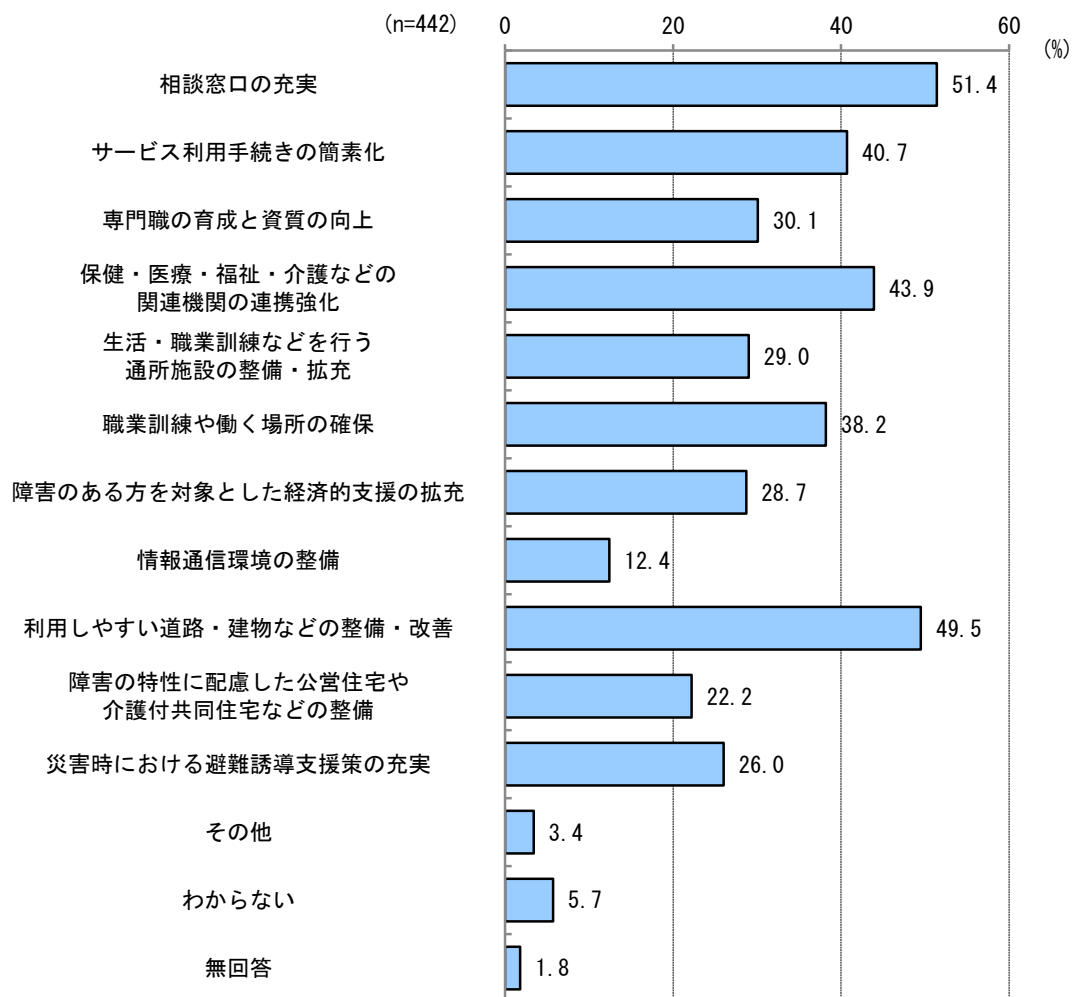
問 23 居住地は障害のある方にとって住みやすい所だと思うか



- ・「わからない」が 42.8%で最も高く、次いで「やや住みにくい」が 18.8%、「やや住みやすい」が 17.4%と続いている。
- ・『住みにくい』（「やや住みにくい」+「住みにくい」）は 35.3%となっている。

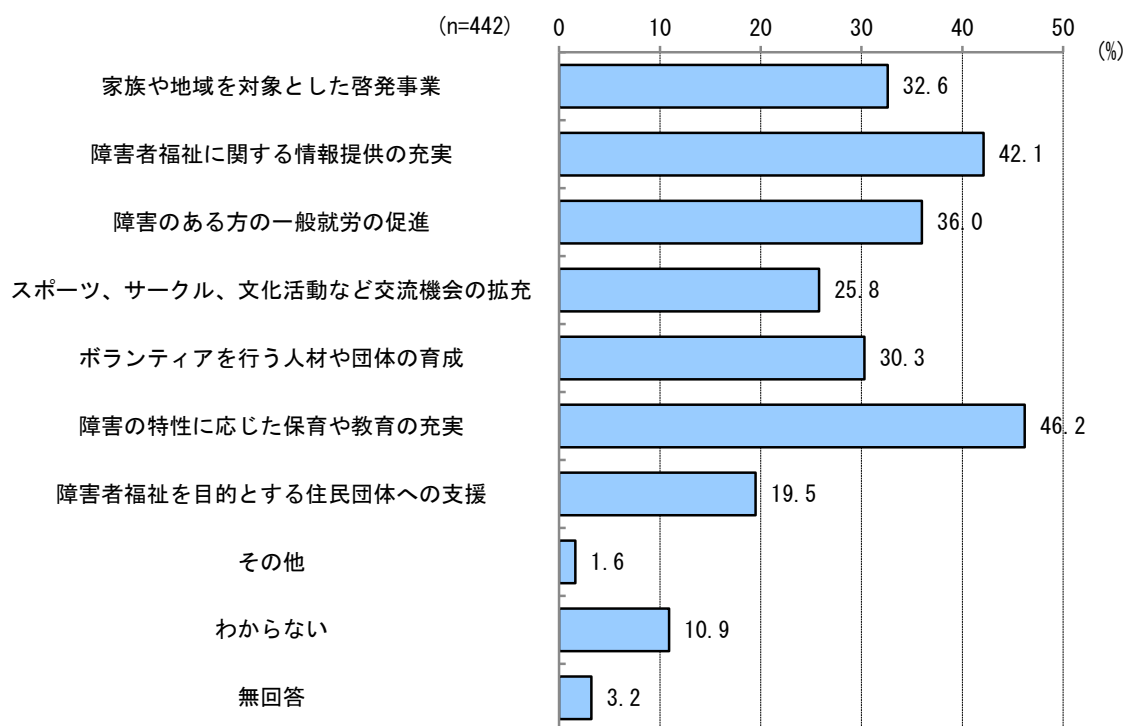
問 24 障害者にも住みよいまちをつくるために必要なこと

①【行政施策として改善できるもの】



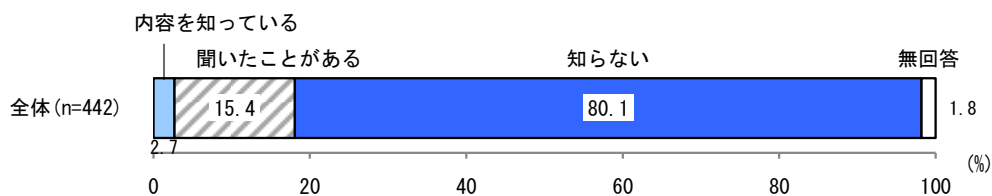
・「相談窓口の充実」が 51.4%で最も高く、次いで「利用しやすい道路・建物などの整備・改善」が 49.5%、「保健・医療・福祉・介護などの関連機関の連携強化」が 43.9%と続いている。

②【障害や障害者に対する理解を深めるもの】



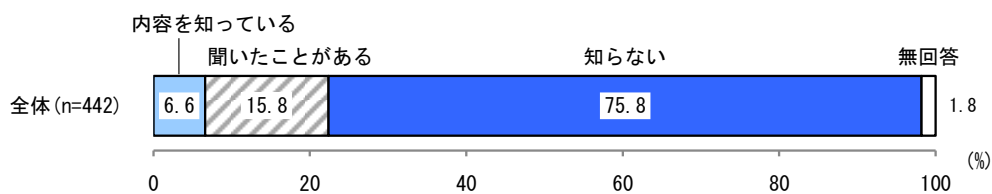
・「障害の特性に応じた保育や教育の充実」が46.2%で最も高く、次いで「障害者福祉に関する情報提供の充実」が42.1%、「障害のある方の一般就労の促進」が36.0%と続いている。

問 25 「まほろばあいサポート運動」の認知度



・「知らない」が80.1%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が15.4%、「内容を知っている」が2.7%と続いている。

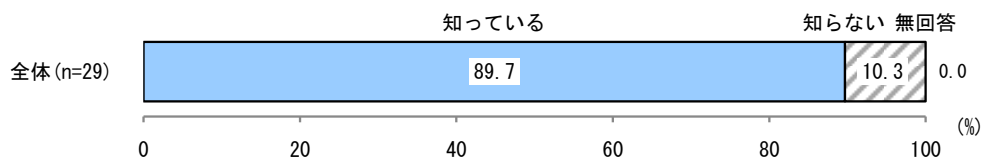
問 26 磯城郡地域自立支援協議会の認知度



・「知らない」が75.8%で最も高く、次いで「聞いたことがある」が15.8%、「内容を知っている」が6.6%と続いている。

問 26-1 磯城郡地域自立支援協議会による物品販売の認知度

(問 26 で「内容を知っている」と回答した方のみ)



・「知っている」が89.7%、「知らない」が10.3%となっている。